

**株式会社ポーラ・オルビスホールディングス
第17期定時株主総会 主な質疑応答(要約)**

Q:【議案】 定款一部変更の件について、バーチャルオンリー総会が開催された場合、具体的な株主への配慮を教えてください。

⇒当社グループはお客さまとの直接の対話を大事にしており、それは株主の皆さまに対しても同じ。今後も原則的にはリアルでの開催を前提にしている。緊急対応時など、株主の皆さまが物理的に参集することが困難な場合に株主総会を機動的に開催可能とするための措置として、バーチャルオンリー総会も選択可能にする定款変更をご理解いただきたい。バーチャルオンリー総会を開催する場合には、信頼できるシステムを使用し、株主の皆さまが安心してご質問やご意見を表明できるよう進めていく。

Q:【新社長抱負】 横手新社長はどのような得意分野・カラーを持っているか。

⇒前議長である鈴木とは異なる個性を持った人間として株主の皆さまに評価いただけるよう、グループの指揮をとっていきたい。当社グループは、個性豊かで強みの異なる経営陣がグループ全体を指揮している。価値観が多様化する社会において、グループが持続可能であるためには、多様な価値観に対しあらゆる方法で取り組んでいく経営をしていくことが必要。グループ全体でそれを実現し、当社グループのオリジナリティを株主の皆さまにも実感していただけることを目指していく。

Q:【連結業績】 2023年10月から導入予定のインボイス制度がポーラの委託販売事業に与える影響と対策について。

⇒今年の業績影響は軽微と想定。経過措置後の影響を最小化するため、ビジネスパートナーの課税事業者登録促進に取り組むと同時に、実務上の負担を軽減するためのサポートも進めていく。

Q:【グループ海外】 中国での販売チャネルは店舗だけではなく通販もあるのか。

⇒店舗事業と通販事業の両輪で展開している。中国市場は世界的にも通販が盛んな国であり、コロナ禍で各社とも通販への投資拡大を図っていることから競争が激化している。当社グループもオンラインをうまく活用し、独自コンテンツの配信を強化するとともに、新たなプラットフォームへの出店を進めている。一方で、店舗はお客さまと直接接点を持つことができ、ブランドの魅力を具体的に発信することができるため、大都市を中心に出店を進めている。引き続き店舗増加による認知拡大・顧客接点の拡大を進めていく。

Q:【グループ海外】 海外事業に力を入れているが、国によって販売価格や利益率が異なるのか。

⇒地域ごとに為替や関税の違いがあるため、販売価格は異なる。どの地域においても収益がとれるよう、ブラ

ンド間の連携もとりながら販管費や投資をコントロールし、グループ全体の海外事業の収益力を高めていく取り組みを強化していきたい。

Q:【グループ海外】 空港免税店の出店基準について。

⇒トラベルリテールは専門の会社を立ち上げ、積極的に展開している。免税ビジネスを支えている中国の観光客が多く利用する国際空港を重点市場として、好立地でブランドの視認性が高いカウンターを獲得できるような取り組みを最優先に進めている。国内はもちろん、香港やタイの空港に積極的に出店している。今後、旅客が回復したら、北京や上海の空港免税にも出店し、お客さまとの接点を拡大していきたい。

Q:【Jurlique】 赤字が目立つが、今後の立て直し策は。

⇒売上の約半分を占める中国と香港におけるコロナ影響の長期化により売上が伸びず、収益改善が思うように進まなかったため、黒字化のタイミングを1年後ろ倒しし、2024年に再設定した。ただし、コスト構造改革は順調に進めており、営業損失は着実に縮小している。今後は更なる構造改革を進めていく。また、商品開発においてはポーラ化成の技術力を搭載し、商品の魅力を上げ、お客さまに選んでいただけるような取り組みを進めていく。

Q:【IT セキュリティ】 ブランドで使用しているアプリはどこで製造しているのか。

⇒オルビスについては、国内で開発し、国内のお客さまに戦略的に活用している。中国では、自社のアプリを活用することは現状投資対効果が得にくいいため、直営店舗や Tmall・Douyin といったプラットフォームを活用したビジネスを展開している。

【注意事項】

本資料に記載の内容は、フェアディスクロージャの観点から、ポーラ・オルビスホールディングス第17期定時株主総会の質疑をもとに、当社の文責より趣旨を要約(順序不同・補足・補正)したものであり、その情報の正確性・完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更される可能性があります。なお、本資料に記載されている業績見通しや将来予測等に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は経済情勢等様々な不確定要因により、これらの予想数値と異なる場合があります。